

2022年10月31日(月)

老球の細道698号

10月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

孫と虫捕り爺さんをしていた9月から一転してイベントが相次いだ月となった。教え子の結婚式や久しぶりの再会などで、バスケットボールにおける絆の深さを知らされた。教え子たちが大きくなっていく姿を見て、身長は低くなっても(検診で去年よりも低い数値😞)人間的にはまだまだ成長したい。

1・テレビから

◆「もみの木 もみの木 おまえはいつも変わらない 夏ばかりか雪降る冬も緑色 天に向かってまっすぐ伸び 冬も葉を落とさない もみの木」〈NHK『名曲アルバム』〉：勉強の合間のコーヒブレイクに録画したものを毎日聴いている。音楽と風景が心を和ませる。クリスマスにはまだ遠いがもみの木を見る目が変わった。ぶれないで成長し続けたい。

◆「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」〈NHK:高校講座「日本史」〉：武田信玄が詠んだ「為せば成る、為さねば成らぬ。成る業を成らぬと捨つる人の儂さ」を米沢藩主上杉鷹山がアレンジしたものとされる。弱気になった時いつも思い出す。

2・読書から

◆「謙虚な人だけが知識を得るんだよ。水は低い処にたまるが、高い処からは流れ落ちてしまう。水は低い処に集まる。そこで種子は芽を吹き、樹になり、実を結ぶ」〈奈良康明著『人類の知的遺産53・ラーマクリシュナ』講談社〉：常に注意することは「そんなことは知っているぜ」と慢心しないこと。身近には当たり前だと思っていることが、当たり前でないことがいかに多いことか。常に学ばなければならない。夢は大きく、態度は謙虚に。

3・新聞、パンフレット等から

◆「迷わず行けよ。行けばわかる」〈朝日：アントニオ猪木〉：幼少の頃「コブラツイスト」や「卍固め」に熱中した。今は猪木氏の「元気ですか？」が私の健康寿命に対する礎となっている。元気＝「思った時、思った場所へ、思ったように動ける」＋「一日があつという間に過ぎる」＋「健康不安がない」＋「疲れが残らない」。元気なら何でもできる。

◆「再び言葉と言葉、魂と魂をぶつけ合い、火花散るような真剣勝負を戦いたかった」〈朝日：野田元首相の安倍元首相追悼演説〉：毎日のように選手だった頃の夢を見る。もう一度勝った負けたの真剣勝負に燃えてみたい。若い頃、なんであんなにひたむきになれたのか。

◆「人間はね、ある人からあてにされるといふこと以上に生き甲斐はないんですよ」〈朝日：折々のことば：渡辺京二〉：いまだにクリニックを依頼してくれるチームがある。そのための新しいドリルを創造する生みの苦しみが、毎日の本気で生きるスパイスになっている。

◆「根っからのチャレンジャーかも。人間なんて未熟だらけで完璧にこなせたら、挑戦することがなくなっちゃう。進むなら楽じゃない方がいい。生きているって実感できますから」〈朝日：スケート：小平奈緒〉：挑戦は失敗だらけ。「失敗」とは「負け」を「失う」こと。